

近森オルソリハビリテーション病院 ● 開院3周年



近森オルソリハビリテーション病院
(上)と一階ホール付近より

三つ子の魂、百まで

近森オルソリハビリテーション病院院長

てい あきもり
鄭 明守



開院3周年

「オルソ」という聞き慣れない名前を冠した当院は2007年10月1日に誕生し、今年3周年を迎えました。オルソとは整形外科を意味するオルソペディクスからとった言葉であり、整形外科単科のリハビリテーション病院という意味で、近森病院整形外科の衣笠統括部長の発案により名付けられました。

住環境や介護環境の整備

「在宅から在宅へ」当たり前のように思われるこの言葉も、達成するためには多くの努力が必要です。当院の在宅復帰率は75%を超えていますが、患者さんにリハビリテーションをする、これだけでは安全に在宅生活へ復帰していただくことは出来ません。

リハスタッフの家庭訪問による住環境の調整や早期からのソーシャルワーカーの介入による介護環境の調整、また病棟での看護スタッフによるADL訓練など、先輩である近森リハビリテーション病院から受け継いだ、在宅復帰へ向けた取り組みの賜物と考えています。

支援体制を築く

急性期病院から引き継いだ患者さん

を在宅へ帰す。このことに関しては、当院の目標はある程度達成されているものと思っています。しかし現在はさらに「退院した後をどうするか？」という課題にも取り組んでいます。その一環として近森病院と連携した退院後のフォローアップ、外来通院リハの提供など、出来る限りの患者さんの在宅生活継続へ向け

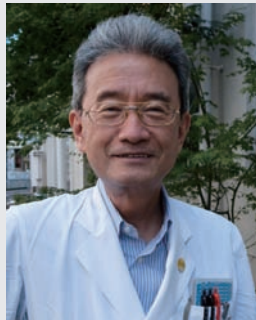
た協力、支援体制を築くことを、次の目標に進んでいきたいと考えています。

「三つ子の魂、百まで」

「三つ子の魂、百まで」全職員で取り組んできたこの3年間の想いを忘れずに、次のステップに進んでいきたいと思えます。また初代北村龍彦院長をはじめ、開院、運営にご協力いただいた関係者の皆様がこの場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

これからもよろしくお祈りします。

一生に一度の出会い



近森 正幸

しばらく控えていた出張も最近は徐々に復活させている。先日でもVHJの会があった機会に、東京で二泊した。今回は英国ロイヤルオペラの「マノン」を聴きに行ったり、ベルギーの村やそこで働く農民たちを描いた「フランダースの光」展を観たり、夜は行きつけのレストランで食事を楽しんだ。実は「レ・セゾン」でいつもお世話になっている若いソムリエ西村圭太郎さんに、イタリアワインのベスト・ソムリエ・コンクール優勝のお祝いを一刻も早くいいたかった。

最近気づいたことだが、舌の味覚が

鋭敏になっている。素材のいいものをきちんと料理したものは美味しく食べることができるが、冷凍物だったり調理に手を抜くと、すぐそれとわかる。同じレストランで食べてもその味わいは、そのときどきで違っている。

美術展なども昔は小走りにまわっていたが、いまは気に入った絵の前で30分じっと絵に見入っていることも少なくない。いつかまた、メジャーでないこうした絵を観る機会はあるのだろうか。

太田和夫先生の訃報の記事を前回書かせてもらったが、大事な人に対しては、精一杯のことをしないといけないものどつくづく思う。お葬式が済んで数日後、奥さまから、「あのときはほんとうに有難かったと申しておりました」というお手紙を頂いたときは、たいへん嬉しかった。

人にも集まりにも、また食や絵や音楽に対しても、なにごとにも一生に一度のものとして最善を尽くす、そんな一期一会の心が、最近になってようやく解りかけてきたように思う。

理事長・ちかもり まさゆき

ふれあい看護体験が行われました

8月25日(水)、これから看護師を目指すという人たちを対象に、看護

の実際を体験する「ふれあい看護体験」が開催されました。参加者は27名で、



梶原統括看護部長の「看護師ってどんな仕事？」というお話の後、口腔ケアをはじめ患者さんとのコミュニケーションやさまざまな介助などの病棟体験、BLS体験などのメニューに取り組んでいました。

▲白衣の天使のタマゴたち、はち切れそうな笑顔でパチリ
▼実技講習には興味深げな面持ちで、みんな真剣そのもの



●第76回地域医療講演会
「ご存知ですか？ 乳房再建」
講師 大阪大学医学部形成外科
乳房再生医学附属講座教授
矢野健二先生
10月15日(金) 18:00～
近森病院管理棟5階会議室

●第14回公開県民講座
「おしっこあなどるべからず！
～透析にならないために～」
11月23日(火・祝) 14:00～
高新RKCホール

献血お礼 8月31日、108人の方が
ご協力いただきました。ありがとうございます。

乞！熱烈応援

ひたむきにサポートを

私のすべきこと



管理部診療支援部
部長補佐 山崎 啓嗣



近森病院臨床栄養部
管理栄養士主任 有光 純子

10月の歳時記

キンモクセイ

近森病院一般外来・ER 看護師
清家 まどか



絵・総務課広報担当
公文幸子

9月下旬から10月上旬頃のある日突然金木犀の香りが始まる♪。それまで匂わなかったのにどの花も一斉に匂い出す。不思議♪。咲いている間中強い香りを放ち、かなり遠くからでも匂ってくる。(どこで咲いているのかを探すのも楽しみのひとつです)

咲いたあとで雨風があるとあっけなく散ってしまう。はかないです。

このたび、診療支援部長補佐を拝命し大変恐縮しております。診療支援部では、その名のおり診療現場の業務が円滑に進むよう支援することが職務であり、診療データから現状分析したり、病院建築では各部署間の調整や行政関連書類の提出を行ったり……。裏方として、しっかり環境整備していくような業務を行っています。

ただ、「診療支援」に繋がることはありとあらゆるものが該当するため、その守備範囲は大変広く、非力な私は、ただひたすらに、部長を追いかけております。

今回、診療現場をサポートする『診療支援部』で、その部長をサポートするという命を頂きました。これは、サポート部署の中でのサポート役ということになりますので、近森会グループでは、誰よりも皆さんをサポートしていく任務にあたるのではないのでしょうか？ 必要なものが必要なタイミングでそつと準備できているようなそんな仕事を目指し、現場の皆さんには心強さや安心感をもって働いて頂けるよう尽力していきたいと思っております。

8月16日付で主任心得の辞令を受けました。「身が引き締まる思い」とはよく耳にすることですが、初めての実感でした。

結婚後、安芸から電車通勤することになり、有意義な時間に恵まれ、毎日、主任という立場を考えています。私は判断に迷うと「自分が何者であり、何を目的に、何をすべきか」と自身に問う習慣があります。これは今の上司から受け継いだマインドです。

まだまだ未熟者ですが、上司と後輩の真ん中にいる立場として、このマインドを伝えたいと思っています。多職種の考えを理解し、皆が納得できる患者さんのための栄養サポートが行えるようスタッフと共に学びながら、邁進します。

今後ともたくさんのご指導を宜しくお願いします。

患者のペースと 医療者のペース

近森リハビリテーション病院

看護部長 寺山みのり



私は、今年、ひとりの患者として急性期看護に触れる機会を得た。ある夜、突然のめまいに襲われ、近森病院を受診した。病院までは自力で来たものの、外来のベッドに横になるやいなや、自分の身体が急激に落下して、まるで床下のブラックホールにでも吸い込まれていくような感覚に陥った。「身体が落ちていく感じですね。怖いですね。大丈夫ですよ」と言う看護師の落ち着

いた低い声と、私の手を握り締めてくれた手が、真っ暗闇の中で唯一の命綱のように感じた。

症状が落ち着き、現実に戻ると、カーテン越しに慌しいスタッフの動きがあった。温かさで冷静さ、丁寧と迅速を兼ね備えた看護師の声と動きを感じながら、以前、私の先輩が話してくれたことを思い出していた。

看護師である先輩は、同じようにこ

のベッドの上で苦しんでいた。後に、「あの時、A看護師さんが汗ばんだ身体を熱いタオルでしっかりと拭いてくれた。本当に気持ちがよかった。あの気遣いはさすが！プロや！」と話していた。

慌しい現場で、患者のペースと医療者のペースを合わせるのはかなり難しい。患者の病態を把握し、患者の不安や苦痛を理解できる看護師だからこそ、タイミングよく、また意図的に、患者の心のペースに合わせる瞬間をつくることのできるのだろう。患者の安心がお互いの安全に繋がることも知っているのだろう。

私は、その夜、忙しいのに申し訳ないという思いばかりで、「ごめんなさい」を連発した。キラリと光る看護に、「ありがとう」を言えればよかったと後悔している。

ハッスル研修医

ジェネラリストとして



後期研修医 古川 大祐

筑波大学医学部附属病院で2年間の初期研修を修了し、今年の4月から近森病院循環器科で後期研修1年目をスタートしています。後期研修先を探しに参加した、昨年5月のレジナビ東京会場で近森病院のブースにフラッと立ち寄り、説明を聞き、一度見学に来てみたら、気付いたら研修が決まっていました。循環器科のパワフルな先生方のご指導のもと、毎日忙しくしています。やっこの忙しさにも高知にも慣れ、今後は専門分野をより早く学んでいくとともに、近森病院の内科医に求められているジェネラリストとして、初期研修で学んだことを最大限に活かす、高知の医療に貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

院外エッセイ

古典とのつきあい

高知大学人文社会科学部門教授
福島 尚



ふくしま ひさし 徳島県出身。1961年生まれ。京都で大学生・院生時代を過ごし、『土左日記』に見える「阿波の水門」や「土佐の泊り」に近い大学に勤務の後、高知へ赴任。専門は、日本中世文学。

日本の古典の内容にふれた初めは、小学校6年の教科書で『平家物語』の「宇治川の先陣」を現代語の再話(名作などを子ども向けにわかりやすく書き直したもの)で習ったこと。中学生の時には、学校で狂言「柿山伏」の実演を見ておもしろかったので、町の本屋で岩波文庫の『能狂言』上巻を入手して、わからぬながらにページをめくった覚えがある。そして、学校の教科書以外に日本の古典をひもところとしたのは、高校1年生の時、急性腎炎になって医者から安静を命ぜられたことがきっかけである。何とか授業には出ていたので、安静時をその予習復習に振り向ければよかったのだろうが、もともと本が好きだったので、読書をして退屈をしのごうとした。講談社文庫の『平家物語』上下2冊を買ってきて、読み始めたが、かなしいかな高校生の学力ではわかりづらい。それでも我慢して読み進めようとするのだが、〈平家物語＝軍記物＝華やかな合戦場面〉という予想に反して、読めども読めども華やかな合戦場面に行き当

たらない。ああこれは駄目だと思つて、その時は投げ出してしまった。

毎年『平家物語』を講義している今にして思えば、それもそのはず、『平家物語』は全体としては平家をめぐる歴史物語というべきものであって、合戦場面はその一要素、普通に読まれている『平家物語』全十三巻でいうと、本格的な合戦場面がはじめて現れるのは、巻四の「橋合戦」であり、高校生の私は、そこに至りつく前にギブアップしてしまったのだ。『平家物語』を通読したのは、後にNHK第二ラジオの「古典講読」での水原一氏による全巻講読の助けを借りてであったが、その時は『平家物語』をそれほどおもしろいとは思わなかった。それが俄然おもしろくなってきたのは、寧ろ近年のこと。それは講義を重ねることで知識が増えてきたからだともいえようが、年齢を重ねることで『平家物語』が語る「歴史」や「人間の生き様」などに多少なりとも理解を及ぼすことができるようになったからでもあろう。



— ラティース (睫毛貧毛症) —

近森病院形成外科部長 赤松 順

ラティースTMは、「まつげを伸ばす」治療用の医薬品として、「FDA（米国医薬品局）」（日本の厚生労働省にあたる）で効果、効能、安全性が確認された唯一のまつげ育毛剤です。

もともと緑内障の治療点眼薬で、まつげが太く、長く、濃くなるという治療目的以外の効果を発現する副作用（広義の副作用）がありました。これを逆手にとって主作用としたのが、このラティースです。まつげの真皮乳頭・外毛根鞘のプロスタノイド受容体に作用して、毛周期における成長期の延長、休眠状態にある毛包の刺激、メラニン



合成の活性化をうながし、まつげを長く、太く、濃くしてくっきりまつげにします。

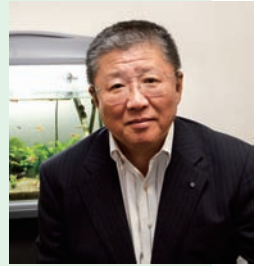
1～2カ月の使用で4～5カ月は効果が持続するようで、コスト的にもエクステやパーマなどと比較しても十分見合う価格で手に入ります。

パッチリ目元を自睫毛で演出してみませんか？ 今から使えば、クリスマスに間に合いますよ。形成外科で扱っていますのでご相談下さい。

管理部長の

こだわりヘルシー美食 18

近森会グループ 管理部長
川添 昇



同業の広報誌がたくさん送られてきているが最近の記事で二人の管理栄養士のステキな文章が印象に残っている。ひとつはK医療センターの設立時より赴任されたらしいスタッフで、出身は日本海側の町から来られたようで、高知と患者さんをこよなく愛してくれているエッセーだった。素直な文章に彼女の人となりがよく出ていて好感を持ってしまった。もう一つは大分O病院の記事。お手軽レシピコーナーでオシャレな「いちじくのコンポート（シュガーシロップ煮）」が取り上げられていた。いちじくはお酒を飲んだ後に食べると二日酔いになりにくいとのこと、いちじく好きの私にとっても嬉しい記事であった。両方とも専門性を生かした文章で、ますます管理栄養士を応援したくなった次第である。これが料理かという、今月も超簡単、

「鱈干物の冷製」



画・臨床栄養部科長 吉田 妃佐

〈作り方〉

- ①鱈の開きの干物を焼いて、あら熱を取り冷蔵庫で30分くらいしっかり冷やす。
- ②骨と皮をていねいに取ってさっぱりほぐす。
- ③冷えた器に盛り、レモン汁、いりゴマと一味唐辛子をふると出来上がり。

〈食す〉

食前酒として冷酒を6～7勺飲むことがあるがそんな時のツマミにぴったり。だから少量でいい。アルコールのほのかな甘味と鱈の旨味と塩ッパ味、レモンの酸ッパ味、ゴマのkokumi味、一味の辛味が胃壁を官能的に刺激してくれる。さあ飲むぞ、食うぞの秋にはぴったりのプレリュードだと思う。それから最後は「いちじくのコンポート」となればなかなか粋なメとなる。

第3回写真展

★会期 10月1日(金)～12月2日(木)
 展示会場 近森病院新館2階
 受賞作品の発表/表彰式
 ★発表 表彰式は11月初旬予定です
 ★主催 コミュニケーション委員会
 共催 写真倶楽部「瞬」

各賞

- ・理事長賞 2点
- ・管理部長賞 2点
- ・統括看護部長賞 2点
- ・コミュニケーション委員長賞 2点
- ・古茂田賞 2点
- ・奨励賞 3点
- ・よさこい賞 (NEW) 1点



近森会運動会

9月19日(日)行われた運動会では、4チームのなかで優勝は外科系チームでした。



バリアフリープラスの皆さんから楽しい演奏のプレゼント

出張報告

日本精神科看護学会 専門学会 I

近森会の看護を
全国に発信して

近森病院第二分院 4階病棟看護師 磯野 洋一



学会の実行委員一同で

8月27、28日の二日間、「かるぼーと」を会場に開催された、日本精神科看護技術協会主催の専門学会Iに、実行委員・座長として参加させていただきました。専門学会とは文字通り、精神科看護を「薬物・アルコール依存症看護」など各専門分野に絞った学会のことです。

今回のように学会の実行委員として自分達が会場設営し、参加者を出迎えるという立場は初めてで、最終日の見送りと片付けまで学会の一連の流れを体験させていただきました。座長という大役も勿論初めてで、緊張のあまり当日は下痢が止まりませんでした。座長が緊張したら発表者も緊張する」「発表者の今までの努力を存分に披露してもらおう」ためにも、「楽しくやろう」と1時間前に気持ちを切り替えました。実行委員と座長を務めたことから、今までの先輩方の苦勞を知り、様々な方への感謝につながりました。

最後に学会に参加して感じたことは、近森会の看護はやはり一歩も二歩もリードしているという実感。近森会の看護を近森会だけのものにしては「もったいない」。近森会の看護を全国

に発信し、全国の看護師が近森会の看護を体験できればいいのにな〜と、僣越ながら考えております。

全国看護管理・教育・地域ケアシステムケア学会第4回学術大会

「食事・栄養に関する
精神科看護師の思考」

近森病院第二分院 5階病棟看護師

伊与田 美香



8月に広島県の福山平成大学にて発表する機会をいただき、「食事・栄養に関する精神科看護師の思考」という共同研究を発表させていただきました。

精神科では精神状態の変化により低栄養や不健康を伴うことが多くあり、一般科とは違った見立てや介入が必要でです。

研究発表では、一般科で働く看護管理者の方や看護教諭の方が多く、精神

科での研究発表は実例がなく多くの質問があり、活発な意見交換をすることができました。

今年の夏は例年になく猛暑で、たくさんの方々が熱中症で救急搬送されています。私も、今回の学会に向かう途中、福山駅にて偶然に痙攣をおこして倒れている男性を発見し、荷物も放りなげ、救急車を呼び迅速な処置をしました。少しだけですが貢献することができました。

リレーエッセイ

「似てる？似てない？」双子の不思議

近森病院総務課/脳神経外科秘書 森野 明峰

私には二卵性双生児の妹がいます。生まれた時の体重が、3,260gと、3,540gとたいへん大きな双子で、二人あわせると、約7kg！母の勞に感謝です。

一卵性双生児ほど瓜二つとまでは似ていない私たちも、やはり容貌や話し方はそこそ似ているらしく人によく間違えられます。小さい頃の写真ではよく似ていて、アルバムを見ても自分がどっちかわかりません。(母が写真の裏に名前を書いています♪)

双子とわかると、容姿を交互にキョロキョロと比べられ、そのうち、ココが違う説が述べられ、最終的にその人独断の「似てる」「似てない」を判定される事が多いです。実際、双子に会った瞬間、私もそうします。

性格においては対照的。歳も同じなのに、小さい頃から比べられる事が多く、お互いにライバル視してたようなところもあったからでしょうか。喧嘩もよくしますが、とても頼りになる片割れです。



妹(左)と記念撮影

ところで、二卵性は一卵性と違い、時を同じくして生まれる兄弟姉妹のことで、遺伝子的には、何年後か後に生まれた姉妹と同じなのです。でも私は片割れに、何か普通の「姉妹」以上の繋がりを感じています♡

第73回地域医療講演会 2010年7月22日(木)

奥村謙教授を迎えて



近森病院循環器科部長部長
深谷 眞彦

当院では頻拍性不整脈の根治法である高周波カテテルアブレーションを行なっています。

昨年は、電気生理学的情報を解剖学的な3次元表示にして不整脈を解析できるCARTOシステムを購入しました。しかも心臓の3次元CT画像と重ね合わせて、より正確に電位および位置情報を把握できる最新型のシステムで、アブレーション治療時に非常に有用な機器です。

奥村教授はこの新しいCARTOを用いた心房細動のアブレーションの実技指導で来院されました。この機会に「不整脈治療の最前線」と題するご講演もお願いしました。

講演は重症例も含む心室性不整脈や

治療の最新の知見を語る奥村教授



改善も目指していることを示す内容でした。

理解が難しいとされる不整脈を平易にと、CARTOなどによる視覚的な画像を用いて治療の最新の知見に触れられました。先生の情熱が伝わってきたご講演でした。奥村先生、有難うございました。

第74回地域医療講演会 2010年8月20日(金)

漢方薬の科学的理解を推進

近森病院第二分院副院長
宮崎洋一



8月20日に静内病院の井齋偉次院長をお招きし、「科学的視点からみた漢方医学」と「この科に、この一本！」とのタイトルにて講演をしていただきました。井齋先生は有効であるものの未だ科学的とは言い難い漢



漢方薬の現在を説く井齋偉次先生

方薬の科学的理解を推進していらっしゃる先生で、当日は漢方薬がそもそも急性感染症の治療薬であったという話から、現時点で科学的にどう理解できるかということ視覚的にわかりやすい形で明解にご説明下さり、その後各科で有効性の高いエキス剤をご紹介して下さいました。

漢方薬になじみのない方には最適な入門講義であり、興味のある方には新たな視点とより一層の関心をもちたしてくれたことと思います。

来る11月5日に今度は「風邪に対する漢方薬のアルゴリズム」の講演をしていただくこととなっております。風邪に対して漢方薬は適切なエキス剤を選択することにより短時間で著効しますので季節柄ぴったりの講演と思っております。多数の方のご参加をお待ちしております。

第22回日本体外循環技術医学会四国地方会

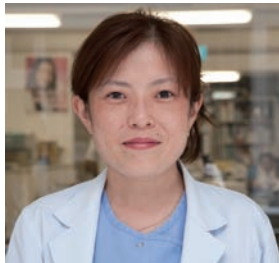
大会長を務めて



臨床工学部技士長
平野 友紀

7月24日に日本体外循環技術医学会四国地方会大会を「かるぽーと」で開催しました。この医学会は心臓手術時の人工心肺操作を行う臨床工学技士の大会で、女性が少ないこの分野で四国初の女性による大会長を務めさせていただきました。

四国外からも来られ、130名以上の関係者の参加がありました。大会内容は昭和大学麻酔科小坂誠教授の講演を



含む「特別講演」3講演と、「一般演題」が9題、その他、次世代リーダーを担う技士を中心に、教育などについてディスカッションする「シンポジウム」も行いました。

当院も教育システムについて発表し、多くの施設から教育カリキュラムなどの資料、施設見学希望をいただき、近森からなにか発信できた事を嬉しく思います。

同職種同士、安全や教育について議論し、刺激し合えた有意義な大会となりました。

2010年度職員旅行のご案内

- ・南イタリア
- ・ナイアガラの滝とニューヨーク
- ・バリ島
- ・チュニジア (世界遺産カルタゴ)
- ・ウィーンとプラハ
- ・セドナ
- ・石垣島
- ・北海道スキー
- ・沖縄
- ・京都
- ・東京デイズニールゾート (ミラコスタプランあり)
- ・屋久島
- ・嬉野温泉・長崎・福岡
- ・なばなの里
- ・城崎温泉かにツアー
- ・USJ
- ・宝塚歌劇観劇 など

9月のバリ島を皮切りに、今年度は上記を含め24プラン！皆さんお楽しみに！

平井凜節先生 いけばな展

近森会華道部のご指導をいただいている平井先生の展覧会です。
 ・11月12日(金)～14日(日)
 午前9時30分～午後5時
 ・高知県立美術館県民ギャラリー
 ・入場料 500円

2010年8月の診療数	近森会グループ		企画情報室
	外来患者数	18,028人	
	新入院患者数	815人	
	退院患者数	788人	
	近森病院		
	平均在院日数	15.26日	
	地域医療支援病院紹介率	85.84%	
	救急車搬入件数	503件	
	うち入院件数	244件	
	手術件数	396件	
	うち手術室実施	265件	
	→うち全身麻酔件数	157件	

「ふつう」で在ること できるだけ 丁寧に暮らすこと

退院時アンケートで人気の高い

高知医科大学(当時)附属病院老年病科での臨床研修スタート後、平成12年にすでに近森病院で勤務経験のあった中岡先生は、平成14年から3年間の保健所勤務を経て、再び近森病院に戻り、丸5年が過ぎた。最近半年間の患者さん退院時アンケートで、人気が高かった先生である。

大きな転機は5年前

「将来にわたり臨床医としてやっていきたいのなら、やっぱり近森病院のような症例が多くポピュラーな疾患も数多く診れるところで」とは思いつつも、学生時代から興味があった予防医学が学べ、しかも保健所生活に何の不満もなかった身には、「思案のしどころで、大きい転機にもなるし…」と、保健所を離れることは勇気の要る決断だった。体力面でも知識吸収面でも臨床に戻るなら今しかない！と、決意を秘めつつ、「ものすごく緊張して」まず電話を入れた先は浜重直久副院長だった。

目線が「ふつう」で在ることの価値

浜重副院長は、「そんなに緊張してた風には聴こえなかったでー(笑)」と、当時の中岡先生の印象。「臨床を離れるのは勿体ないと思っていた。患者さんにはむろん、先生方にもコ・メディカルにも、みんなに好かれる先生やね」と、浜重副院長のコメントはいつもながら温かく、評価の決め手は「目線が『ふつう』であること」を挙げられた。医療従事者は治してあげるとでもいうのか、患者さんとは目線がしばしば離れがちになりそうだが、浜重副院長によると、「中岡先生がエラそうにせず、患者さんの目線で事に当たれるのがいい」のだ。

頼り甲斐のある医師になるために

それでも、人生やっぱり悩みは尽きないのだろうか。中岡先生には患者さんから「本音の部分では頼りないと見られてないか…」と、どうやら一抹の不安もあるようで、だから「一にも二にも精進です」と、十年以上のベテラン医師とは思えない謙虚さだ。

内科の学会で優秀賞に選ばれたこと

を『ひろっぱ』でもお伝えしたことがあるが、浜重副院長や川井和哉部長から「このテーマに挑戦してみたら！」と勧められ、素直にコツコツ症例を集めて検討できるのも、やっぱり頑張り屋なればこそだろう。患者さんから見て、頼りになるかどうかは、日頃からどんな姿勢で医療に向き合っているかにもよる。中岡先生の仕事に対するひた向きさにも、きっと人気の秘訣があるのだろう。

丁寧に暮らして「至福のとき」を生む

日中は病気の患者さんと向き合い、症状の不安定な患者さんが入院中の場



使い込んだエプロンもよく似合う

合には帰宅後に呼ばれることも覚悟して夕食をとる、という生活ではストレスも、と気になる。が、週に一度は「至福のとき」をしっかり持っているから大丈夫。その一部だけご紹介したい。

休日は、「勿体ないから普段通り起き、病院の用事は午前中には終わらせて」、そのあと掃除洗濯も手早く済ませ、食事の仕度にも気を遣う。つついお菓子を食べたり、外食が多くなったりする分を休日に取り返すつもりで、半日をゆったりと丁寧に過ごすのだ。

この休日のマンションライフに「至福のとき」が宿っている。

平日に食べる分を休日に可能な限り準備して冷凍するとか、「主食だけにはこだわりたい」とか、「用事を済ませた



あとの昼寝が楽しみ」とか。

中岡先生によると、「どんな風に家事をしても、結局その時間は必要なのだから、それならできるだけ丁寧にやれたら、と思うだけ」という考えだ。

生活にともなう雑事をこなす時間はどうやっても要るのだから、家事を科学で考えるということなのかも知れないが…。それにしても、忙しい先生なのに頭が下がる。

そういえば、浜重副院長が言われていた。「優秀な先生。惜しむらくは…、惜しむらくは、きちっとし過ぎていて、抜けたところがない、スキがないのよねえ〜。肉食系の、俺について来〜い！という男性は居ないもんじゃろか!!」



愛犬、 きなこ・もなか

近森リハビリテーション病院
3階東棟看護師 大野 綾夏



2010.

就職して2年目、段々と任される仕事も増えいろいろな職種の方に日々助けられています。みなさんの「癒し」はなんですか？ 私の癒しは、実家で飼っている2匹のミニチュアダックスフンドの「きなこ」と「もなか」です。同じ犬でも、まったく性格の違う2匹を見るだけで癒されています。愛犬の癒しを活力にし、これからも仕事をがんばりたいです。

きび診療所

院長の出身地紀州の「き」、副院長の出身地備前の「び」を合わせて命名 ●南州市明見 Tel 088-804-6500

診療科目 内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科、臨床検査科、糖尿病内科、腎臓内科

白神 実 副院長、中山 拓郎 院長(右)

診療所では院内検査、レントゲン、CT検査、心電図検査、超音波検査、内視鏡検査(上部/下部)、予防接種、特定健診、健康診断などを行っています。



14人のスタッフ全員集合で記念撮影



ゴーヤの緑のカーテンが涼しい待合室

原則は予約制、新患は随時受付。朝7時30分から受付、8時診療開始で、出勤前に検査を受ければ、同日夕に結果がわかります。ちょっとした気になる症状でも、気軽にご相談を。

受付から会計まで平均40分という所要時間の短さと、30分で約30項目の検査も、売ります。だから、「時間がない」とか「忙しい」などと健康診断を後回しにせず、年に一回は定期健診を受けてください。往診もします。なお、本年2月RKCTV『木の国木の住まいスペシャル』で県産の自然素材を利用した「木の診療所」、「杉のぬくもりが人を癒す」と紹介されました。



図書室便り (2010年8月受入分)

- ・OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 15 高齢者橈骨遠位端骨折の治療早期ADL回復をめざして/金谷文則(担当編集)
- ・新弾性ストッキング・コンダクター 静脈疾患・リンパ浮腫における圧迫療法の基礎と臨床応用/平井正文(他編集)
- ・リンパ浮腫診療ガイドライン 2008 年度版/リンパ浮腫診療ガイドライン作成委員会(編集)
- ・リンパ浮腫全書 診断・治療と患者指導/大橋俊夫(監修)
- ・リンパ浮腫 診療の手引き/リンパ浮腫治療研究会(編著)
- ・脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで/根来 真(監修)
- ・脳脊髄液減少症の診断と治療/守山英二(編集)
- ・肺 HRCT 原書 4 版/蝶名林直彦(監修)
- ・臨床・病理 脳腫瘍取扱い規約 臨床と病理カラーアトラス 2010 年 7 月第 3 版/日本脳神経外科学会、日本病理学会(編集)
- ・ココから学び始める! 睡眠呼吸障害診療のポイント/梅博久(監修)
- ・よくわかる脳波判読第 2 版/音成龍司(他著)
- ・観察・ケアのポイントがひと目でわかる! 超早わかり脳神経ナーシングマップ/青木友和(総監修)
- ・ソーシャルワーカーにおけるバーンアウトその実態と対応策/清水隆則(他編著)
- ・すぐわかる SPSS によるアンケートの調査・集計・解析でいねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門/内田治
- ・「医療統計」わかりません/五十嵐中(他著)
- ・ポジティブな人だけがうまくいく 3:1 の法則/バーバラ・フレドリクソン(著)
- ・コンコードダンス 患者の気持ちに寄り添うためのスキル 21/安保寛明(他著)
- 《寄贈本》・経営を科学・哲学する病院長が書いた異色の経営論/山本浩志
- 《別冊・増刊号》・画像診断別冊 KEYBOOK シリーズ 肝胆膵の画像診断 - CT・MRI を中心に-/山下康行(編著)
- ・別冊 NHK きょうの健康脳卒中見逃さない、あきらめない/内山真一郎(総監修)
- ・別冊医学のあゆみ 消化管癌 Up date 研究・診断・治療・予防の進歩/菅野健太郎(編集)
- ・フレイナーナーシング 2010 年春季増刊 3 ステップでわかる脳神経疾患看護技術/田村綾子(監修)
- 《視聴覚資料》
- ・呼吸器&循環器ケア Vol.10No.3 付録 胸部 X 線スキルアップ技・心エコー異変見極め/野口哲男(他企画・監修)

編集室通信

さて、この文章を書いている日は「よさこい祭り」本番の日です。今年は近森病院も初参加とあってスタッフの皆さんの努力には頭が下がる次第です。自分は一歩引いたところから傍観者として見ていましたが、やはりここにも近森パワーというか、やると決めたらチームで一氣に形を作っていく姿が凄かったです。皆さんにお疲れさまを贈ります。

奥田

診療数は 6 面に掲載